



Youth-led  
Advocacy for  
Sustainable Development  
~ the Future We Want ~

## Japan Youth Platform for Sustainability 2017年度 年次報告書



**J.Y.P.S.**  
Japan Youth Platform for Sustainability

Japan Youth Platform for Sustainability

<http://japanyouthplatform.wix.com/jyps> | <https://www.facebook.com/JYPS2030/>

## 目次

|               |   |
|---------------|---|
| 1. 導入         | 3 |
| 2. 基本情報       | 3 |
| a. 団体概要       | 3 |
| b. 運営委員会名簿    | 3 |
| c. 組織図        | 3 |
| d. 会員情報       | 3 |
| 3. 運営報告       | 3 |
| 4. JYPS活動分野   | 3 |
| a. 国内         | 3 |
| i. ユース        | 3 |
| ii. 市民社会      | 3 |
| b. 国外         | 3 |
| 5. 各関連会議報告書一覧 | 3 |
| 6. アネックス      | 3 |
| a. 会計・予算執行報告書 | 3 |
| b. 各会議報告書     | 3 |

## 1. 導入

持続可能な社会にむけたジャパンユースプラットフォーム(Japan Youth Platform for Sustainability: JYPS)は、国際連合(国連)や多国間で行われるさまざまな枠組みを作るための議論に向けて、日本の若者の声を政策として、日本政府や国連機関、そのほかの市民社会に届けていくための若者による若者のための場である。2015年にJapan Youth Platform for Post-2015 (JYPP2015)として発足して以来、17つの持続可能な開発目標(SDGs)を含む「我々の世界を変革する～持続可能な開発のための2030年アジェンダ」(2030アジェンダ)の採択を踏まえてJYPSへと変革を遂げながら、SDGsは勿論のことながら、「仙台防災枠組み2015-2030」(SFDRR)、「開発資金のためのアディスアベバ行動計画」(AAAA)、「持続可能な都市開発のためのニュー・アーバン・アジェンダ」(NUA)、G7サミット、アフリカ開発会議(TICAD)、アジア太平洋経済協力会議(APEC)、開発資金会合(FfD)、ハイレベル政治フォーラム(HLPF)と様々な国際会議の折に、日本政府への働きかけと会議への派遣を行っている。それらの会議においては、UN Major Group for Children and Youth<sup>1</sup>のメンバーとして、国際的な若者と連携し、政策提言を行っている。

JYPSは、総会と其れによって選ばれたメンバーから構成される運営委員会を軸に、それぞれのプロセスごとにコーディネーターを選出し、活動を行う。それぞれのコーディネーターがそれぞれのプロセスや役割内で活動するのに対し、運営委員会はJYPSの統治と説明責任を担い、WGの透明性の担保、総会の実施、予算執行等を担う。

このレポートは、2017年度の活動のまとめと総括をしたものである。

<sup>1</sup> 国連における持続可能な開発に関する交渉(SDGs, SFDRR, その他)においては、主に「メジャーグループとその他のステークホルダー」というモダリティが国連決議にて採用される。メジャーグループと呼ばれるものには9つあり、そのうちのひとつがUN Major Group for Children and Youth (UNMGCY)である。すなわち、国連においてアドボカシーを行う際に、若者、もしくは若者団体であれば、このUNMGCYを通じての参画が確保されている。UNMGCYはプラットフォームであり、そのコーディネーターは選挙を通じ、意思決定はコンセンサスに基づいて行われる。詳細は、<http://childrenyouth.org>

## 2. 基本情報

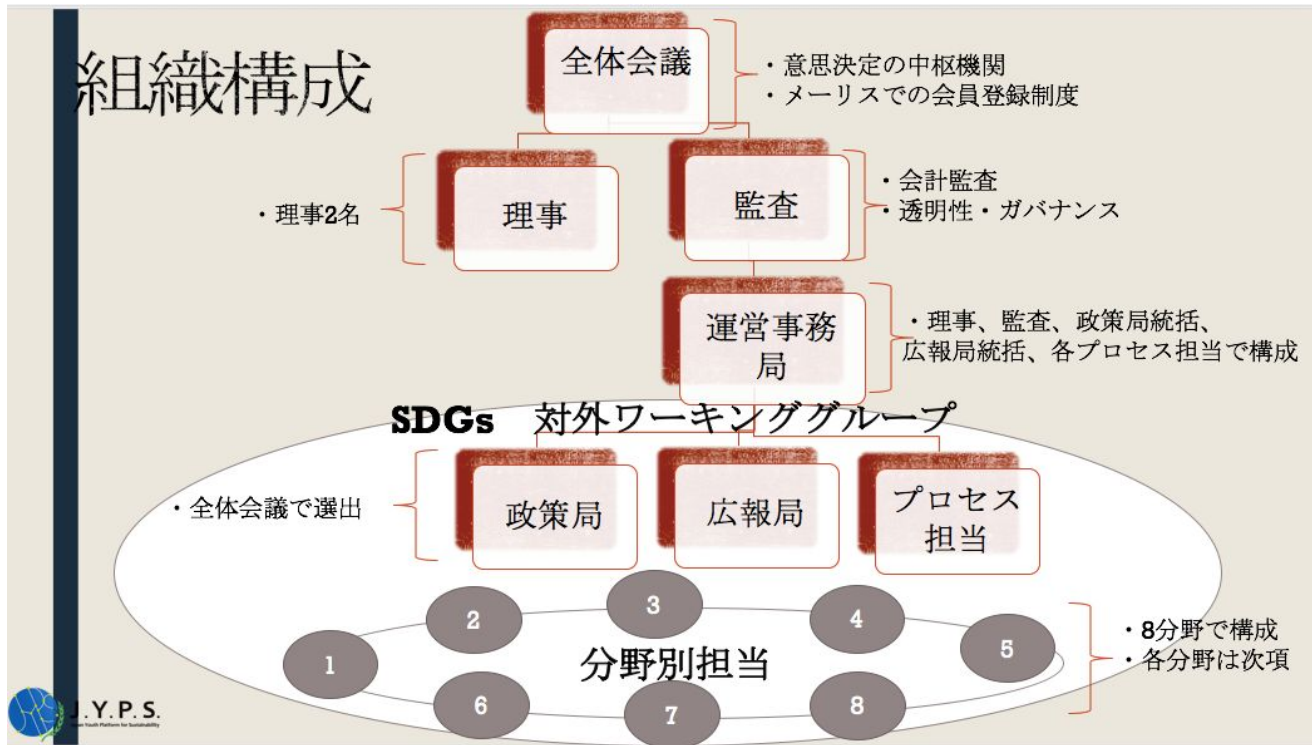
### a. 団体概要

### b. 運営委員会名簿

以下運営委員会及び政策局、広報局の名簿（2017年12月時点）

| 役職                 | 氏名    | 担当業務                   |
|--------------------|-------|------------------------|
| 代表理事               | 大久保勝仁 | 事業統括                   |
|                    | 唐木まりも | 事業統括                   |
| アドバイザー             | 小池宏隆  |                        |
|                    | 外池英彬  |                        |
|                    | 上田格   |                        |
| 政策局                | 遠藤あんな | 政策統括・ニューヨーク担当          |
|                    | 松井晴香  | 政策局・TICAD VII コーディネーター |
|                    | 高橋真理奈 | 政策局・TICAD VII コーディネーター |
|                    | 清水唯羽  | 政策局・ニューヨーク担当・Twitter担当 |
|                    | 内田愛美  | 政策局                    |
|                    | 中島寿美子 | 政策局                    |
|                    | 菊田礼   | 政策局                    |
|                    | 川面孝一  | 政策局                    |
| 広報局                | 池田康太  | 広報統括・Facebook担当        |
|                    | 塩田貴子  | 広報局                    |
|                    | 加戸菜々恵 | 広報局                    |
|                    | 幾田歩未  | 広報局                    |
|                    | 藤縄聖菜  | 広報局                    |
| TICAD VII コーディネーター | 松井晴香  | 政策局・TICAD VII コーディネーター |
|                    | 高橋真理奈 | 政策局・TICAD VII コーディネーター |
|                    | 西尾萌波  | TICAD VII コーディネーター     |

### c. 組織図



### d. 会員情報

2017年12月9日時点で、加盟団体数25、個人320名（加盟団体数と加盟員総数）である。

## 3. 運営報告

### a. 全体統括と達成報告

2017年度は、2016年度までに築いてきたネットワークと連携を広げるだけでなく、深くする年度であったと言える。加盟団体を単純に加盟団体としてとどめるのみならず、彼らのもつ専門知識やネットワークを生かし、政策提言の質と幅を高めていくことを進めることができた。新しい執行体制へと以降する上で、様々な支障や困難があったが、これまでの基礎を崩すことなく、次に生かすことができた。

以上の全体的所感を踏まえたうえで、2016年度に設定したゴールをもとに、2017年度の達成を振り返ってみる。2016年度は、地球環境基金にも提出をした通り、三つの活動を軸に行った。1つ目は、ユースプラットフォームの堅調な拡大。発足を改めて記念するものを、総会の中に取り入れ、様々な団体から参加を頂いた。加盟団体は、2016年度のXXからYYまで拡大し、個人加盟もXXからYYまで拡大をした。加盟団体と個人を含めると、ほぼすべてのSDGsのゴールや活動専門分野をカバーすることができ、ネットワークの多様性が改めて確認される。（参照1）。今回の来年度活動予算策定にあたっては、実際に加盟団体・個人に対しどのようなニーズがあるかの調査も実施し、JYPSの活動計画をさらに民主化するプロセスを進めることができた。20

18年1-3月にかけて、追加で二回ほどのアドボカシー・トレーニング兼加盟団体が集う場を提供したいと考えている。

活動2つ目は、他のステークホルダーと同等な立場で連携、情報発信。

活動3つ目は、ユースによる持続可能な開発に関連する政策提言。

- i. 基金のコミットメント達成度合いもここに付ける ([コミットメントレビュー表](#))
- ii. 出席した会議数, 発言数とか
- iii. 国内での各会議参加サマリー
- iv. 国外での各会議参加サマリー
- b. 2016年度-2017年度の総会報告 [総会報告書 doc](#)
- c. 来年度に向けて

#### 4. JYPS活動分野

- a. 国内
  - i. ユース
  - ii. 市民社会
- b. 国外
  - i. ここに基金申請レポートとなっているものをコピー  
<https://docs.google.com/document/d/1H1LWeUjzbz6INu7kWzUuUQwzNINdhvPIOHNW6VuegCc/edit?usp=sharing>

#### 5. 各関連会議報告書一覧

a.

#### 6. アネックス

- a. 会計・予算執行報告書
- b. 各会議報告書